

# 神山神社だより

H 2 1 年  
5 月

## 社宝の太刀「銘・吉則」が身近に

神山神社の社宝であり、また国の重要文化財である太刀「銘・吉則」が昨年十二月二十五日、三十八年振りに東京の国立博物館から中津川市苗木遠山史料館に戻ってきました。遠山史料館では他にも多くの刀剣を預かり、保管施設もしっかりしていることから、文化庁の許可も無難に通じ、この度の苗木遠山史料館への寄託となりました。今までは遠くにあつて、ほとんどの方が見る機会がありませんでしたが、同館では早速多くの方に見ていただくよう、今年三月に特別展示をしていただきました。この太刀「銘・吉則」は明治中期、元苗木藩主遠山友禄によって神山神社に奉獻されたもので、昭和三年に国の重文となり、昭和四十五年



から東京国立博物館に寄託となっていました。近くに帰ってきたことで、これからは見られる機会も増えそうです。展示の時には一度ぜひ見てください。

## 神宮式年遷宮奉賛金の状況

昨年春には氏子皆様には多大なご協力を賜り、お陰さまで目標額を大幅に超える奉賛金をいただき、誠に有難うございました。福岡部会での募集活動は、ほぼ終了しましたが、これまでの成績は次の通りです。

田瀬 二十六万四千円 一四七％  
下野 二十六万四千円 一三九％  
福岡 八十五万四千円 一四四％  
高山 四十万円 一四四％  
合計 百七十八万二千元 一四四％  
現在のところ中津川市支部の中では二番目の成績です。  
第六十二回伊勢神宮式年遷宮の完成は平成二十五年十月の予定ですが、すでに工事は始まっており、現在宇治橋の架け替え工事が行われています。

## 伊勢神宮参拝旅行

今年も新年の伊勢参りを一月十六、十七日に実施しました。今年も昨年と比べて福岡部会（町全体）では二十四名多い百七十三名の参加がありました。中でも福岡区は十八名多い六十八名、他区の内訳は、田瀬四十名、下野三十三名、高山三十二名でした。今年も第一名神道が完成したことか

ら、翌日の行程を今までと変えて、京都まで足をのばし、北野天満宮と伏見稲荷を参拝しました。なお今年も十回以上参加の方が町内で八名あり神社庁から感謝状と副賞が贈られました。福岡区は次の方です。

三十回参加 山田信孝さん（松尾）  
二十回参加 野久義雄さん（松尾）  
十回参加 山内鉦三さん（松尾）

## 来年の伊勢参りは

ほとんどの神社が新年に伊勢参りを計画しますので、ホテル確保の関係上、既に来年春の伊勢参拝旅行は次のように決まっています。

平成二十二年一月十四（木）十五日（金）です。二日目の行程は今年と同様に京都方面を予定しています。年の初めに氏神様とお伊勢さんをお参りすると、その一年が気持ちよく、さわやか過ぎるものです。来年も多くの方のご参加を期待しております。

## 奉納者のご紹介

平成二十年度も多くの方からご奉納をいただきましたので御紹介いたします。ご奉納の種類と奉納者は次のとおりです。

一、「奉納金 五十五万円」  
昭和二十四、二十五年生れの還暦を迎えられる方、六十六名様  
一、「奉納金十五万円」  
昭和四十三、四十四年生れ、厄年の男性十六名様  
一、神山神社配置図面

平成二十一年度還暦者、植苗木の片岡俊裕様（配置図は神社境内、上がり口の休憩所に掲示）  
一、神社境内の電柱二本取替工事  
電柱と工事費合計約五万円分  
植苗木（有）杉浦通信様

そのほかにも、沢山のご寄付、ご奉納をいただいております。皆さん、有難うございました。

## 今年の例大祭は七月二十六日

今年のお祭りは七月二十五日が宵祭、二十六日が本祭りとなります。祭当番は祭元が元中組地区、富くじが元野尻地区、余興元は植苗木地区です。今年もよいお祭りが出来ますよう、氏子皆様のご協力をお願いします。

## 永代供養の受付

神山神社では事情があつて御霊を自宅でお守りできない方に代わって位牌を預かり、永代供養できるように氏子会館内に位牌所を設けてあります。申込がありますと、審査会を経て受入れております。既に入所された御霊も何件かあります。氏子の場合、費用は一家分、三十万円を基準とします。なお、墓の無い方のための納骨所についても昨年ご紹介しましたとおり、長根墓地に「氏子祖霊之墓」としてお墓が完成しております。利用費は納骨時に五万円を基準とします。既に一家の納骨をしております。

## 神山神社のホームページ

権禰宜の深谷耕平さんが作成したホームページで、神山神社の謂れ、例大祭、ご祭神、社宝、その他、我が氏神様のこと全てがよく解るように説明してあります。パソコンを開くには、<http://www.midworks.jp> または岐阜県神山神社↓検索です。ぜひ一度開いてみてください。

## 「神道のしきたり」

〔自宅の神棚の整え方〕

「御札（おみだ）は神宮と氏神様（神山神社）の両方祀るのが基本」  
神棚は家の中の神社といわれます。新年には必ず神宮大麻と氏神様の御札二体を一對としてお祀りし、そのほか自分が崇敬する神様があれば、一緒に祀ります。もし神棚のない家がありましたら、ぜひ神棚を設置しましょう。その場合、明るく清潔な場所です。立ったとき、視線より上にくる位置が良いとされます。出来れば東向きか南向きが良いでしょう。神棚の種類は一社造りと三社造りがあります。一社造りは前から奥へ神宮、氏神様、崇敬神の順にまつります。三社造りは中央に神宮大麻、向かって右に氏神様、左に崇敬する神様をまつっていきます。なお一社造りの簡単な神棚でしたら神社で斡旋しておりますので地区の氏子総代に相談してみてください。代金は無料ですが、数に限りがあります。